

大野城市民総ぐるみ防災訓練における 学校と連携した避難所設営訓練について



訓練概要

目的

実際に学校の体育館を使って避難所を開設し、市民や教職員等にイメージをもってもらおう。

また、様々な状況を付与し、避難所開設時に想定される課題の抽出や対応策の検討を行い、学校の体育館が避難所となった際のレイアウトを整理する。

大城小学校における訓練内容

(1)避難所体験

対象：教職員、児童・保護者、大城小周辺にお住いの方

- ①避難所受付
- ②フェーズ(段階)ごとの避難所イメージ展示
- ③非常持出品(小中学生がいる世帯向け)展示
- ④パーテーション組立訓練(大城小教職員)



①避難所体験_避難者受付



②フェーズ(段階)ごとの避難所イメージ展示

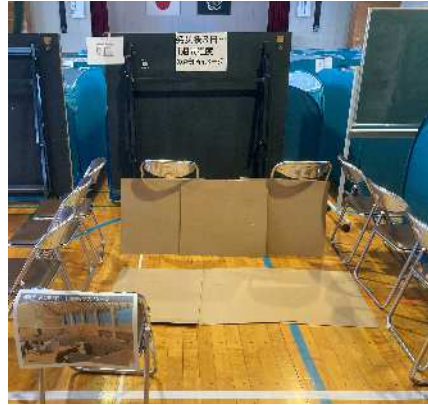
大規模地震発生後の避難所イメージ

発災直後



災害直後で混乱し、余震が落ち着くまで何もない避難所で身を寄せ合う

発災後3日～1週間程度



自宅に戻れない避難者が備蓄などにより生活するが、物資や支援が十分でない

発災後1週間～3週間後

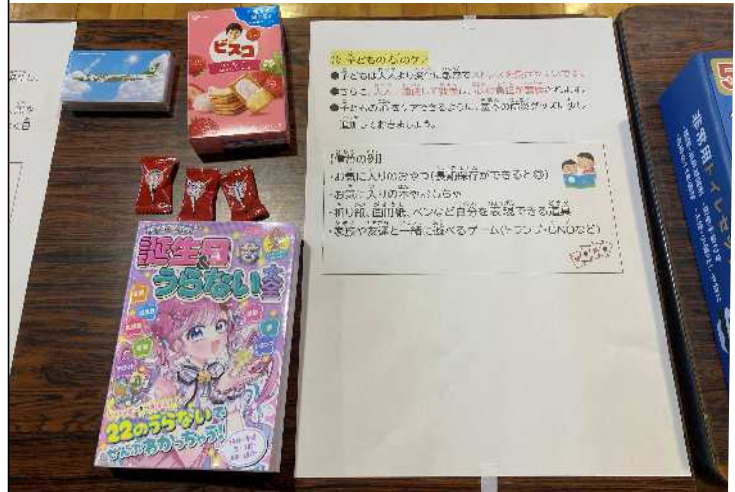


物資や支援が届くようになり、避難所の生活環境が改善されていく

②避難所イメージ展示



③非常持出品(小中学生がいる世帯向け)展示



③非常持出品(小中学生がいる世帯向け)展示



④パーテーション組立訓練(大城小教職員)



大城小学校における訓練内容

(2)避難所設営訓練

対象:教職員、市職員

- ⑤リアルHUG(避難所運営ゲーム)
- ⑥体育館レイアウト検討
- ⑦大城小学校教職員との協議



HUG(避難所運営ゲームとは)

避難所運営を皆で考えるためのひとつのアプローチとして静岡県が開発したものです。避難者の年齢や性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所の体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを図上で模擬体験するゲームです。

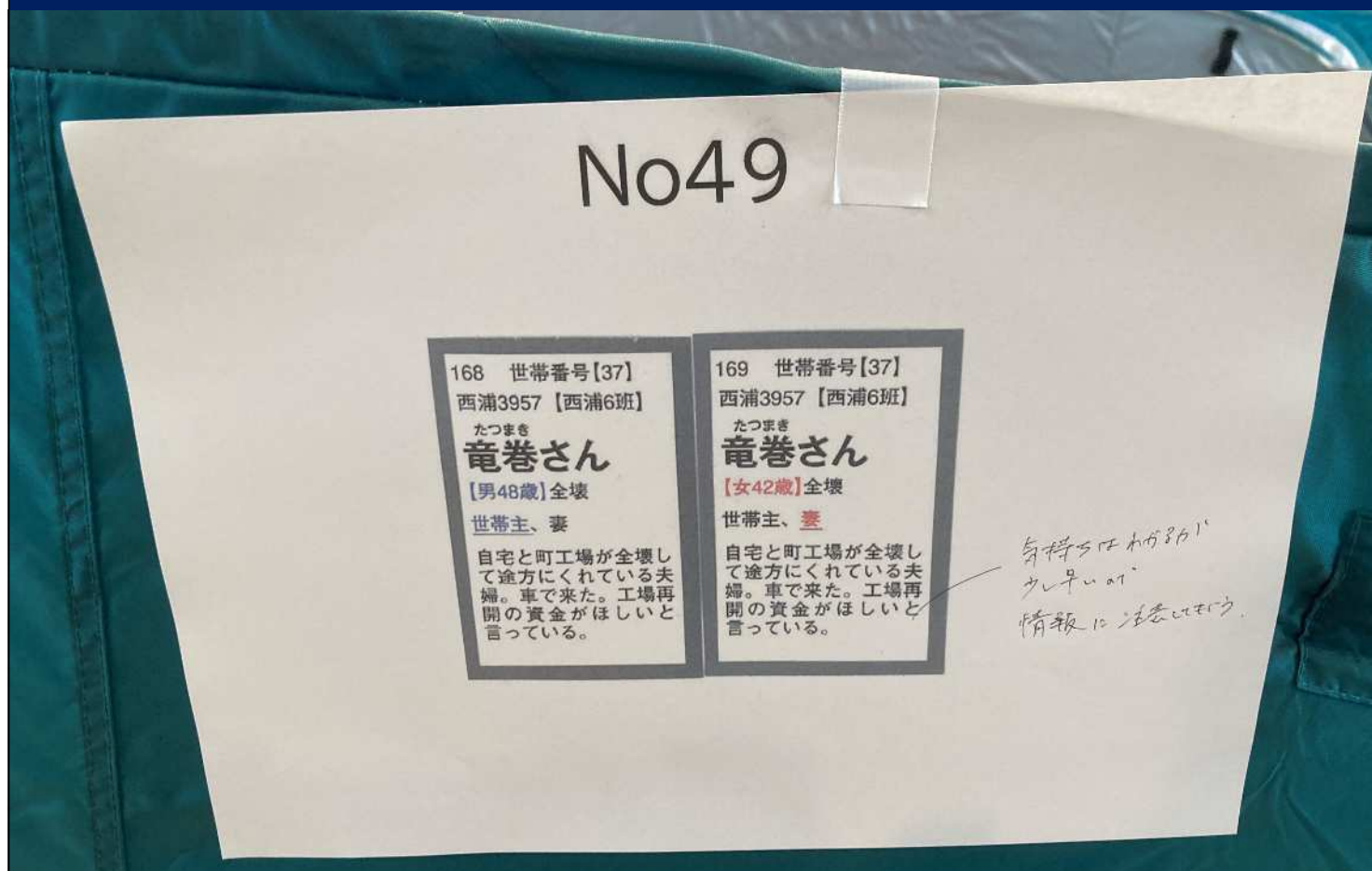


大城小学校でR4年8月に実施

⑤リアルHUG(避難所運営ゲーム)



⑤リアルHUG(避難所運営ゲーム)



⑥体育館レイアウト検討



⑦大城小学校教職員との協議



訓練結果を参考に作成した体育館レイアウト案



訓練結果(検証)と今後に向けて

【避難所体験】

- ◆大城小学校教頭先生や釜蓋区長の周知のご協力により150人を超える多くの方々にお越しいただき、大規模地震発生時の避難所のイメージをもってもらうことができた。

【避難所設営訓練】

- ◆パーテーションの設置向きや通路幅の検討など図上訓練では気づきにくい課題を抽出することができた。避難所のレイアウトについて市職員と教職員が一緒に話し合い、大切なポイントについて共有することができた。

毎年、市内小中学校と連携を図りながら
訓練の質を**向上**させていく！

